

「世界遺産学習研修会」を終えて(2)

12月25日(金)に開催された「世界遺産学習研修会」で、大正小の取組も実践発表の一つとして紹介されました。

【大牟田市立大正小学校の実践発表】

○大正小の校区は、大牟田駅が近く、人が集まる場所である。その条件を活かし、世界遺産と絡めて学習を進められないかと計画を立てた。学習のねらいはステージ3で構成され、【ステージ1】まちのよさを知ろう、【ステージ2】世界遺産を多くの人に知らせよう、【ステージ3】大牟田のためにできることを考え、実行していこう、という内容になっている。

○6年生の実践例では、【ステージ1】では大牟田市の良さについて、自分が調べてみたいものを考え、インターネットや本を利用した調べ学習をしたり、大牟田市長の出前授業を受けたりした。世界遺産登録に向け、大牟田駅の清掃も行った。

○【ステージ2】では、世界遺産について詳しく知るために、市役所の方の出前授業を行い、新聞にまとめていった。世界遺産登録決定の時は、自分達で号外の新聞を作り、大牟田駅で配布した。修学旅行にも、世界遺産についての発信の学習を位置づけ、長崎の大浦小と交流を行った。大正小の発表をグループごとに聞いてもらったり、大浦小の友達からグラバー園を案内してもらったりした。

○【ステージ3】では、発信して終わりでよいのかを考え、自分達にできること(駅周辺の清掃や花植)を見つけ、行動化を図っていった。

○成果としては、学習を計画的に行ったことや、大浦小との交流を充実させたことで子ども達が自分達のまちに誇りを持てるようになったことが挙げられる。

ユネスコ子どもサミット

1月16日(土)に、文化会館で「大牟田市ユネスコスクール子どもサミット」が開催され、各学校でのESDの取り組みが発表されました。オープニングに明治小児童が英語の歌を歌った後、それぞれの学校が世界遺産の見学やガイド、安心して住みよい町づくりなどについての取組を発表しました。

今年は、市外からも長崎市立大浦小学校、岡山市立興除中学校、筑紫野市の武蔵台高校が参加し、学習の成果を伝えてくれました。ユネスコスクールのつながりや広がりを感じることができました。

最後は、みなと小児童による「大牟田弁もおもしろか」の合唱で幕を閉じました。ご指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

大牟田市立天領小学校の実践

「再発見！私たちの誇り【世界遺産 三池港】の学習」を通して

天領小学校の6年生は、三池港ができるまでの経緯やその機能、特徴などについて学習した後、実際に船で三池港を見学しました。現役で稼働する機械や閘門などを間近で見て、その機能のすごさを実感することができました。三池港が世界遺産に登録されてからは、地域住民や保護者を招いて「三池港世界遺産登録記念児童集会」を開催しました。代表児童がプレゼンテーションにより三池港をはじめとする市内の構成資産を紹介し、「その素晴らしさを一人でも多くの人に伝えていく」など今後やりたいことを発表しました。



大牟田市立玉川小学校の実践

「北海道留寿都小学校との交流」を通して

玉川小学校では、北海道の留寿都小学校と「食育」をテーマに全学年で交流をしています。1、2年生の自分達が栽培したさつまいもを通じた交流を紹介します。1年生はさつまいもとお手紙を留寿都小学校に送りました。留寿都小学校からは、小豆ときな粉が送られてきました。小豆ときな粉は5年生の親子福祉もちつき大会で、ぜんざいやきな粉もちにしておいしくいただきました。2年生は「いきなりだんご」を作り、そのレシピを留寿都小学校に送りました。留寿都小学校からはそのレシピを見ながら「いきなりだんご」を作りましたというお手紙と感想が返ってきました。このように、本校では2校それぞれの地域の特色を生かした農作物や手紙を中心に交流を行っています。

